

指導者の役割

The Professional Educator



指導員資格

指導理念 指導の心得 指導の倫理と責任

一般社団法人日本バトン協会

BATON TWIRLING ASSOCIATION OF JAPAN

A

求められる指導者



現代の指導者には、選手の主体性を尊重し、自ら考え判断する力を養う「選手主役」の関わりが求められます。単に技術を教え込むのではなく、対話を通じて個々の可能性を引き出し、心身の成長と自律を支援する役割が重要です。また、暴力や暴言を厳禁し、科学的根拠に基づいた安全な環境を提供しながら、指導者自身も常に謙虚に学び続ける姿勢を持つこと。スポーツを通じた豊かな人間形成を支える伴走者としての姿が求められています。

出典：公益財団法人日本スポーツ協会「公認スポーツ指導者指針」より引用・改変

指導者の本質



現状の課題

技術習得（やり方）が目的化し、人間形成（あり方）が二の次になっていないか？



これから、私たちは何を目指すのか？

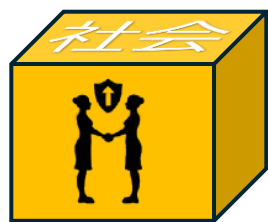
「技術を教える指導者」から「未来を育む教育者」へスポーツの真価を
体現し、社会から信頼される人材育成の責務を果たします。

指導者の役割



1. 社会的役割

指導者は技術伝達の枠を超え、社会的な責任を担う存在です。



1-1. 信頼の基盤



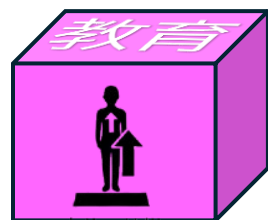
1-2. 継続的な進化



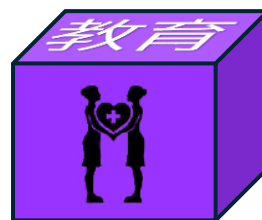
1-3. 持続可能な発展

2. 教育的役割

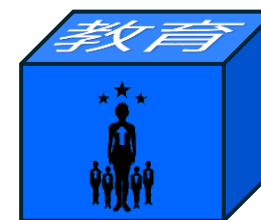
選手との関わりにおいて、一人ひとりの成長を支える存在です。



2-1. プレーヤーズセンタード
による自律の支援



2-2. ウェルビーイング
と安全の保証



2-3. ロールモデル
としての存在

指導者の役割

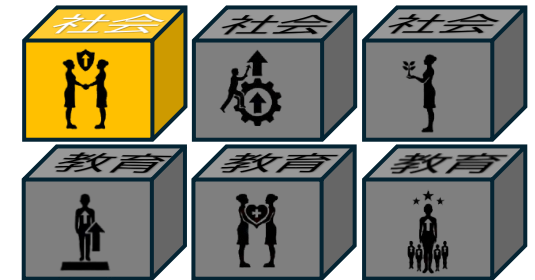
1. 社会的役割



指導者は社会的な責任を担う存在

1-1. 信頼の基盤

現代のスポーツ指導には、単なる技術伝達を超えた「高い倫理観」と「ガバナンス」が求められています。



指導者は、これまでの主観や道徳観のみで判断するのではなく、法律・定款・規程などの組織運営上のルールを正しく理解し、それらを「客観的な物差し」として活用しなければなりません。主観による意見で判断をしないために、高い倫理観とガバナンスを融合させ、ルールに基づいた適正な活動を実践することで、組織の一員としての透明性を確保し、倫理観をより強固で実効性のあるものにします。明確な根拠に基づくことで、社会や保護者への説明責任も担保され、信頼される地位が確立されます。

【本質】 指導者の高い倫理観と組織の透明性

【目的】 社会・保護者から最も信頼される地位の確立

※ガバナンス：組織の健全な運営を維持するため、ルールに基づき内部を統制する管理体制や仕組み。

指導者の役割

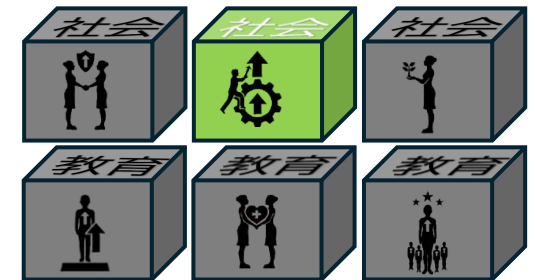
1. 社会的役割



指導者は社会的な責任を担う存在

1-2. 継続的な進化

「かつて取得した資格」に頼るのではなく、「今現在の指導力」を可視化する必要があります。



指導者には常に知識を更新し続けることが求められ、その内容は主観的な経験則ではなく、専門知見に基づく客観的な根拠を伴うことで可視化されます。バトントワーリングの技術のみならず、スポーツ科学、教育学、心理学、さらには法務や組織運営上のルールなど、指導の根拠となるあらゆる専門分野の最新情報を学び、自らの指導力をアップデートし続けることはプロとしての責務です。全ての指導者がこの継続的な研鑽を積むことが、全国どこでも質の高い指導を提供できる体制の礎となります。

【本質】 専門知見を更新し続けるプロ意識

【目的】 全国一律で質の高い指導体制の提供

指導者の役割

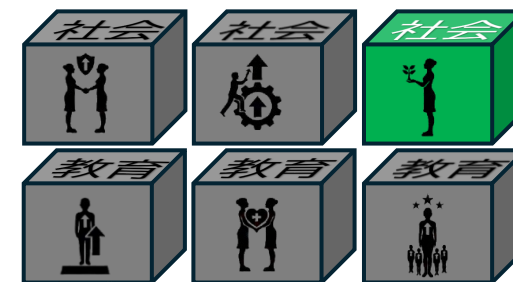
1. 社会的役割



指導者は社会的な責任を担う存在

1-3. 持続可能な発展

指導者の役割を「人材育成」へとシフトさせることで、バトントワーリングの普及と次世代のリーダー育成を促進します。



指導者は、競技技術の向上のみを使命とするのではなく、活動を通じて自律した人間を育む「環境の設計者」でなければなりません。教育的価値に基づいた適切な指導環境へとシフトし、スポーツを通じて社会に貢献できる人材を輩出することは、バトントワーリングの価値を競技の枠を超えた「社会的な財産」へと高めます。次世代のリーダーを育てるこの循環こそが、競技の持続的な発展を可能にし、揺るぎないブランドを築く原動力となります。

【本質】 人間的成長を促す環境へのシフト

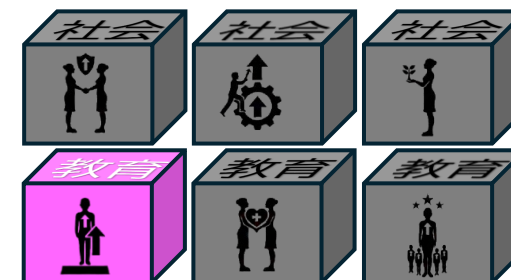
【目的】 バトントワーリング競技の社会的価値（ブランド）の向上

指導者の役割

2. 教育的役割



指導者は成長を支える存在



2-1. プレーヤーズセンタード による自律の支援

技術を一方的に「教え込む」のではなく、自ら考え、判断し、行動できる自律的な人間を育むサポーターとしての役割です。

指導者は、選手の主体性を引き出すための「対話」を重視し、試行錯誤を許容する安全な環境を提供しなければなりません。単に正解を与えるのではなく、選手自身が課題に気づき、解決策を見出すプロセスをサポートすることで、内面からの成長を促します。この「選手中心」の関わりを通じて培われる自律心は、競技力の向上に留まらず、将来どのような環境においても自ら道を切り拓くことができる「社会で通用する問題解決能力」の礎となります。

【本質】 選手の意思を尊重し、共に歩む姿勢

【目的】 社会で通用する問題解決能力の育成

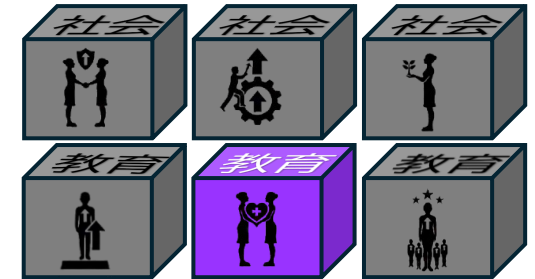
※プレーヤーズセンタード：選手を活動の中心に据え、その学びや自律的な成長を最優先に促す指導の考え方のこと。

指導者の役割

2. 教育的役割



指導者は成長を支える存在



2-2. ウェルビーイングと安全の保証

勝利至上主義から脱却し、スポーツをすること自体がウェル

ビーイングにつながる環境を整える「環境デザイナー」としての役割です。

指導者は、身体的な安全の確保はもちろんのこと、選手が自分らしくいられる「心理的安全性の高い環境」を設計しなければなりません。結果のみで選手の価値を判断するのではなく、一人ひとりの存在を認め、挑戦を称える環境が求められます。指導者が適切な環境をデザインすることで、選手は失敗を恐れずに学び、他者との比較ではない「自己肯定感」と、仲間への「相互リスペクト」を育むことができます。このような心身ともに満たされた状態（ウェルビーイング）での活動こそが、スポーツの真の価値を創出します。

【本質】 心理的安全性の高い環境のデザイン

【目的】 自己肯定感と相互リスペクトを生み出す環境作り

※ウェルビーイング：心身が健康であるだけでなく、社会的にも満たされ、幸福で自分らしくある状態のこと。

指導者の役割

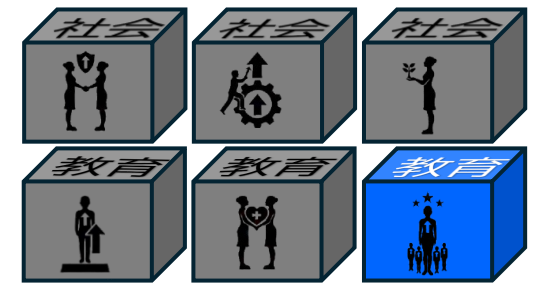
2. 教育的役割



指導者は成長を支える存在

2-3. ロールモデルとしての存在

指導者自身が常に学び続け、規程を遵守し、倫理観を持って行動する姿を見せる「生きた教科書」としての役割です。



選手は、指導者が発する「言葉」以上に、その「振る舞い」を鋭く観察し、学び取ります。指導者が自らルールを重んじ、誠実に社会の規範を体現する姿は、選手にとって何よりも説得力のある教育となります。また、指導者自身が限界を決めず、常に新しい専門知見を吸収しようと研鑽を積む姿勢は、選手の学習意欲を刺激し、互いに高め合う関係性を生み出します。指導者が一人の人間として「学び、変わり続ける姿」を示すことで、技術だけでなく生き方そのものが選手から憧れられる存在となり、競技の価値を次世代へと繋いでいくことになります。

【本質】 指導者自身の「学び続ける姿」

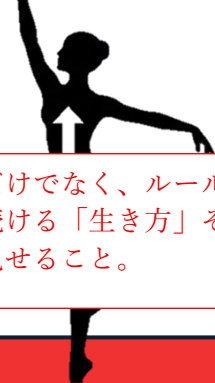
【目的】 選手から憧れられる存在へ

※ロールモデル： 具体的な行動や考え方の模範となり、周囲が目指すべき理想的な人物像や存在のこと。

理想の指導者

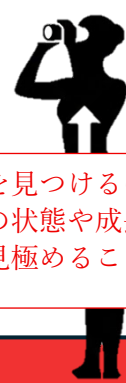


やれる
(体現)
模範となる



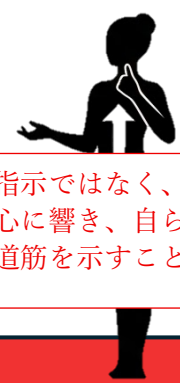
技術の高さだけでなく、ルールを遵守し、学び続ける「生き方」そのものを選手に見せること。

みれる
(洞察)
見極める



単なるミスを見つけるのではなく、選手の心身の状態や成長の予兆、安全を正しく見極めること。

つたえられる
(対話)
導く



一方的な指示ではなく、対話を通じて選手の心に響き、自ら動きたくなるような道筋を示すこと。

